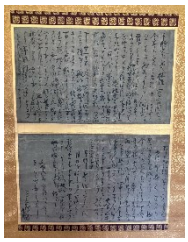
「福井、石川の家庭に残る蓮如さんのお宝大集合」展の見どころ

1.蓮如筆神号「南無拝師明神」（正八幡神社所蔵、石川県白山市）
蓮如が布教の会所と寝所に使った正八幡神社に書き残した日本で唯一の神号。「諸神諸菩薩を軽んじるな」と一向一揆にはやる門徒を戒めた蓮如の胸中がうかがえる。「拝師」は「はやし」と読み、同神社所在地の古地名。文字が読みづらいため、赤外線写真も展示する。県外初出展

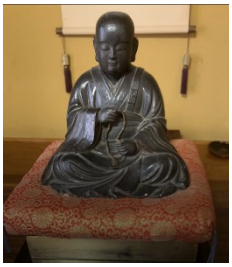
2.蓮如の法衣等（麻王伝兵衛氏所蔵、あわら市）
麻王家内にある蓮如堂に伝わる蓮如の墨染の袈裟と衣（麻製）、扇子、念珠、蓮如が水鏡で描いた 64 歳の自画像等。
麻王家は「近吉崎」と呼ばれ、毎年の蓮如忌に今も近隣の門徒が多数参詣する。初出展

3.蓮如の持仏「面代わりの本尊」（阿弥陀仏・銅製）、蓮如筆「二分けの名号」（大谷派應觀寺所蔵、坂井市）
鬼面を被って嫁を脅した老母に蓮如が自身の持仏を授けたのが、「面代わりの本尊」。
また、「二分けの名号」は、蓮如が篤信の嫁に書き与えた。吉崎で流布した「嫁脅し肉付きの面」とは、鬼面が外れる最後の場面に違いがある。元々、あわら市柿原の浄林寺（現在廃寺）に伝えられ、縁あって應觀寺に移った。初出展



4.蓮如書状（坪田紀久子氏所蔵、金沢市）
山科本願寺内に常樂寺屋敷を建てるにあたり、敷地の所有関係、土の搬入や植樹、堀の造作等を蓮如が細かく実見の要請等を指示した書状。説法ではなく、俗事のため、法名の蓮如と書かず、実名の「兼寿」と記されている貴重な資料。所蔵者の実家・二口家で代々、継承されてきた。初公開

5.蓮如「椿の杖」「水晶の念珠」「三方正面阿弥陀如来絵像」
（本願寺派徳性寺所蔵、加賀市）
山中温泉での布教を終え、出立の際に蓮如が残した宝物。蓮如が突きさした「椿の杖」の下から湧出したと言う「椿清水」は、今も徳性寺境内で枯れることなく湧き続けている。往時の北陸布教の様子と蓮如の苦労が偲ばれる。初出展



6.蓮如木像（蓮如上人御霊屋所蔵、勝山市）
勝山市野津又の長勝寺跡（現在の蓮如御霊屋）に、蓮如によって吉崎御坊から移植されたお手植えの「五三の松」が明治期に枯れたため、その枝で造られた蓮如木像。500 年間、地域の心の支えとされてきた。初出展

7.蓮如筆「六字名号」（斎藤正実氏所蔵、越前市）
齋藤家は平家の武将斎藤実盛の末裔で、代々時宗の檀家。北陸布教の際、蓮如が時宗信徒を取り込んだと言う説との関連をうかがわせる。初公開

8.福井、石川の県民宅に残る蓮如真筆「名号」約 20 点
地域の宝、或いは各家庭で 500 年間、代々伝え、守られてきた六字、九字、十字の名号。初公開。